



白岡市立篠津中学校の取組

1 本校の概要

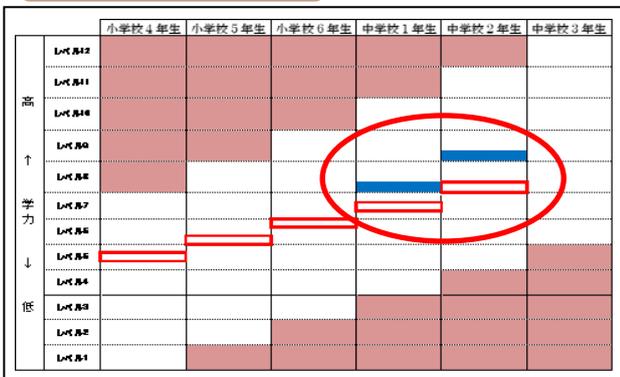
本校は白岡市のほぼ中央部に位置し、開校75年目を迎える、全校生徒数444名、学級数14学級の中規模校である。学校教育目標『自立』のもと、「進んで学ぶ生徒・心豊かな生徒・行動力のある生徒」の育成を目指し、全教職員が一丸となり教育活動に取り組んでいる。令和元年度に「言語活動の充実」のテーマのもと白岡市教育委員会委嘱の研究発表会を行い、令和3年度からは研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ～GIGAスクール構想と個別最適な学びを目指して～」と設定し、授業改善を図り生徒一人一人の学力向上を目指した授業づくりに努めている。

2 令和2・3年度の結果

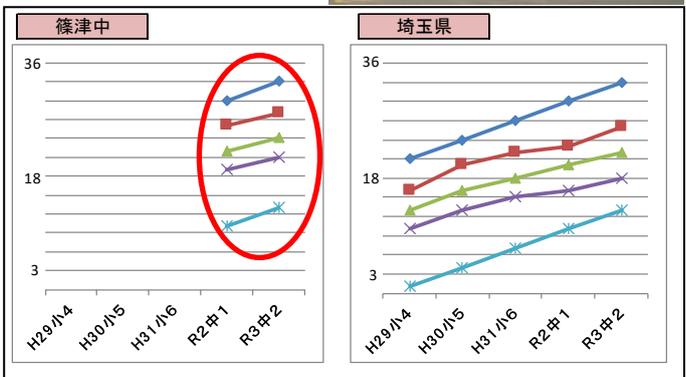
中学校1年生→中学校2年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【数学】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



○数学の学力のレベルが、中1では2段階、中2では3段階、県平均を上回っている。

○学力の伸びは、上位層・中位層・下位層、全ての層で順調に伸びている。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 1時間の授業を見通すことができ、興味をもてる導入の工夫

毎時間、学習内容を見通すことができるように、導入での課題提示場面で1時間の授業の流れを明確にしている。また、日常生活（例えば天気予報やニュース、話題になっている出来事、流行など）の中から学習内容に関連することを導入で触れ、生徒が興味・関心をもって授業に取り組めるように工夫している。



イ 個人とグループ活動を織り交ぜた、学習内容の定着をねらった授業展開

授業の最初には「学力向上ワークシート」等を活用して、毎時間ミニテストに取り組み、学習内容に対する理解の確認と定着をねらっている。課題解決ではまず自力解決し、その後グループ活動でタブレット端末を活用して解決方法等を共有している。その中で、課題解決ができなかった生徒も、どこが分からなかったのか生徒同士で共有できるようにしている。理解できたこととできなかったことを共有することにより、学び合い、教え合いの環境づくりに努めている。一人一台端末環境の整備により、タブレット端末の活用により情報の共有が容易になった。

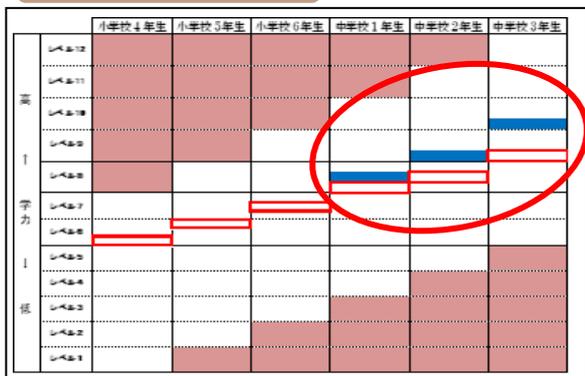
ウ 振り返りを通して、生徒個々のつまずきの把握

授業の終末は、必ず振り返りを記入して自己評価をする時間を設けている。それにより、教師が生徒のつまずきなどを確認し、個別の指導に生かしている。また、ノート点検を通して、アドバイスやコメントを記入することで学習内容の定着を図っている。

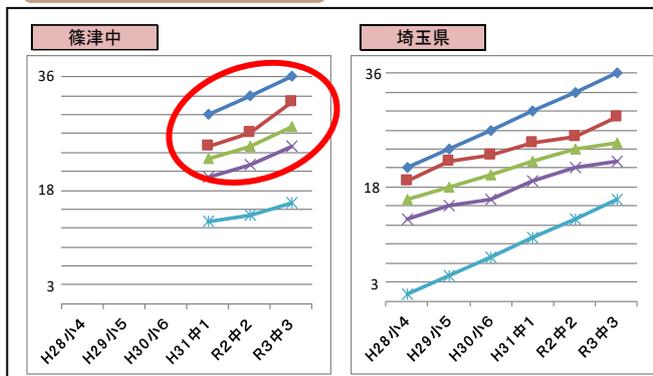
中学校2年生→中学校3年生の取組

(1) 学力の伸びから見られる特徴【国語】

今までの学力の変化



学力の伸びの状況



- 国語の学力のレベルは県平均を上回り、学年が上がるにつれて県平均との差が大きくなっている。
- 特に上位層から中位層の学力の伸びが大きい。

(2) 伸びを引き出した効果的な取組

ア 日々の授業で年間を通して実践している取組

一年間を通じて、授業の最初に漢字テストを実施し、毎時間「漢字を書くこと」に集中させる時間を確保している。さらに、一時間の授業で一つのことわざを学習することにより、知識の定着を図るとともに語彙力の向上を目指している。また、朗読練習にも年間を通して取り組み、正確に読む力を身に付けさせ、一つ一つの言葉を大切にする授業を実践している。



イ 感想記入と話し合い活動を繰り返し、生徒同士で情報を共有

授業の課題を提示後、学習に対して見通しをもつために課題に対してどのような学習イメージをもったかをICT端末に記入している。それをもとに課題に対しての話し合い活動を実施し、ICT端末を活用して生徒同士でイメージの共有を図った。特によい発想のものは学級全体で共有した。さらに、生徒同士の情報を共有した後、再度生徒個人の感想を書くことにより、考えの変容を確認している。

ウ ノート点検や学習状況の確認を通して個別最適な学びの実践

生徒の授業ノートやワークシート、ミニテスト、定期テスト等を確認・分析することにより、個々の生徒のつまづきを把握し、アドバイスをしながら、学力の向上を図っている。また、間違い直しを徹底して行い、生徒それぞれの課題改善に取り組んでいる。

学校全体での取組

ア 主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善

生徒が学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって主体的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の学びの改革を推進している。また、主体的・対話的で深い学びを実現するための手段として個別学習を充実させるために、GIGAスクール構想により、導入されたICT端末を有効活用し、ICT端末を授業にどのように取り入れていくかを全教科・全教職員で研究し、授業改善に取り組んでいる。

イ 教職員同士も「学び合い・深め合い」を実践

教職員全員がライブ授業研究会など年間一人一回以上研究授業を行い、研究協議で得られる指導の新しい視点や意見をもとに、各教科の研究を進めている。研究の視点や生徒アンケートを含めた検証法についても、各教科で設定している。

